

埼玉新聞

2007年(平成19年) 2月17日 土曜日 第22369号

発行所 埼玉新聞社
〒330-9090
さいたま市浦和区岸町6-12-11
TEL. 048-862-3371(代)
購読申し込みは
フリーダイヤル ムナサビ バババ
0120-633-888

松岡醸造株式会社
小川町下古寺7-2
04933721234



清酒 帝桜

「木の銀行」構想スタート2年

ときがわに貯蔵拠点

山から切り出した県産材を貯蔵し必要な時に速やかに供給する流通システムの構築を目指す「埼玉の木の銀行」構想が、スタートして約二年を迎えた。木造住宅を求める消費者と手ごろな価格で木材を提供したい林業家らを、県やNPOの連携で結ぶ試みた。昨年秋からは貯蔵拠点の「第一号」に協同組合「彩の森とき川」(比企郡ときがわ町)の敷地を確保、ほかの生産地にも関心を広めている。県内の新築住宅に使われる県産材は推定3%以下。「ふもと」の県民に特産を伝え、低迷の巻き返しを図る。(中嶋基人)



共同組合「彩の森とき川」敷地内に貯蔵された県産木材(温提供)

県産材の家づくり 流通本格化

構想は木の家づくりにかかわるNPO三団体でつくる「埼玉の木を考える委員会」と県が、林業や木材の関係者と共に二〇〇五年から進めてきた。製材所から市場に出された木材は従来、卸や小売りの材木店を経て工務店が買い付ける経路を取ってきた。この構想はこうした工程や販路を簡潔にし、消費者に「顔の見える家づくり」を支援するの狙いだ。

木材に用いるスギやヒノキは、成長の鈍い伐(き)り旬(九月〜翌年二月)に伐採。原木のままか、製材して積み重ね、色つやを出すために自然乾燥させる。今シーズンは計約三百本を山林から切り出し、彩の森とき川の敷地内にストックした。一方で「たいすきの会」が昨年一月に実施した調査では、希望する住宅として約七割が「大工・工務店による木の家」を挙げた。

木の銀行には、西川材を産出する飯能市周辺の関係者らも関心を示しているという。同室は「第二」、第三の木の銀行を増設できれば「と期待を寄せ

止 市町村に「しん」投資導入し

一般競争を全市町村に広げることが有効と判断した。